

群 教 セ	101 - 04
	令 2.275 集
	特一知的障害

既習事項を現在及び将来の社会生活とのつながり りで考え、生かしていこうとする生徒の育成

——課題設定の工夫と「すてきな大人になろうシート」 の活用を通して——

特別研修員 根岸 修一

I 研究テーマ設定の理由

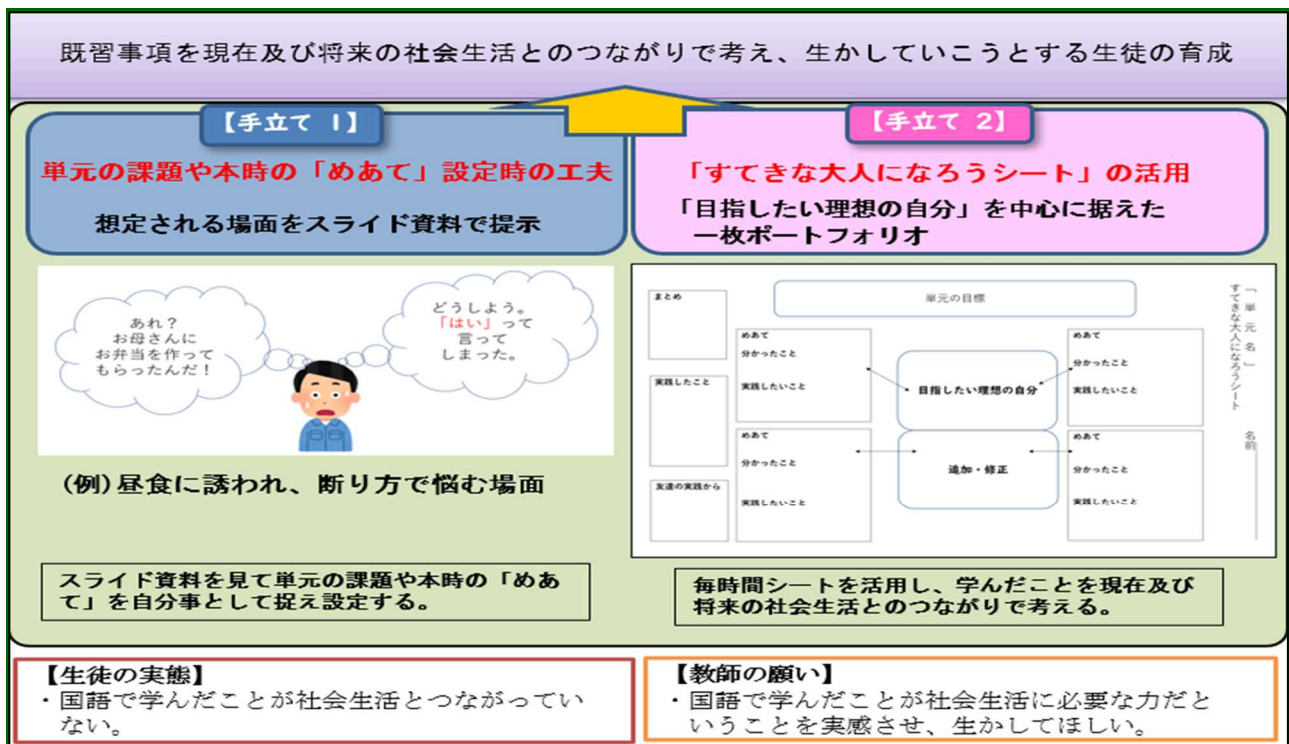
知的障害高等部特別支援学校に在籍する本校生徒は、職場体験などで、話し手が伝えたいことの中に注意して聞き、話の内容を捉えることができずトラブルになったり、作業中に困惑したりする姿がよく見られる。こうした体験が積み重なり、コミュニケーションに自信をもてず、「話すこと」の目的や意図に応じた言葉の表出に苦手意識をもつ生徒が多い。これは、生徒が国語で学んだことの意義を自覚し、生活の中で十分に生かし切れていないことが一つの要因であると考えられる。また、このような状況では、自分が理想とする将来の姿を思い描き、それに向かって目標を立て実践していくことは難しい。

特別支援学校高等部学習指導要領では、「学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を育成するため、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ること」が示されている。社会にすぐ出ていく生徒は、社会生活に必要な言語理解・表現、対人スキルなどを在学中に学ぶことが重要であり、その根幹を担う国語科の役割は大きいと考える。

そこで、国語の授業で学んだことを現在及び将来の社会生活とのつながり方で考え、理想とする自分の姿を思い描き、生活の中で実践していきたいことを記入できる「すてきな大人になろうシート」を作成し、活用していく。そして、国語で学んだことが社会生活に必要な力となっていることを実感させ、主体的に生活の中で生かそうとする生徒を育成したいと考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

<手立て1>単元の課題や本時の「めあて」の設定時における工夫

生徒が日常生活や現場実習等で感じた、身近な困り感を基に、学習内容とつながりのあるものをスライド資料で示し、自分事として捉えて、単元の課題や本時の「めあて」を見いだせるようにする。単元で学ぶことを自分の現在及び将来の社会生活とつなげて考えることができるようにする。

<手立て2>「すてきな大人になろうシート」（資料参照）の活用

「目指したい理想の自分」を常に意識させることを通して、単元で学んだことが、自分の現在及び将来の社会生活とつながりを実感できるようにし、日常生活の中で生かそうする意欲を高める。

- ・単元全体や各時間で学んだことを一目で振り返ることができるよう、A3用紙一枚のシートとする。
- ・基本のシートを作成するが、個々の実態に合わせて枠などを変更する。
- ・「つかむ過程」では、単元全体の見通しをもたせた際に、この単元の学習内容を踏まえた「目指したい理想の自分」を記入させる。
- ・「追究する過程」では、各時間の「まとめ・振り返り」の場面において、本時の学びを生かして、日常生活の中で「実践したいこと」を考え記入させる。さらに、各時間に記入した「実践したいこと」を日常生活の中で、実践していくよう促す。また、「つかむ過程」で考えた「目指したい理想の自分」も確認できるようにし、変更・追加事項があれば、記入させる。
- ・「まとめの過程」では、単元全体の学びとともに、日常生活の中で「実践したこと」を振り返らせ「目指したい理想の自分」に近付けたことを確認できるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 生徒が日常生活や現場実習等で感じた身近な困り感を基に、スライド資料を作成し、単元の課題や毎時間の「めあて」の設定に生かしたことで、生徒は、自分のこれまでの経験や現在及び将来の社会生活と重ねて考え、興味・関心をもち、自分事として捉えて、課題を設定・追究することができた。
- 「すてきな大人になろうシート」を作成し、学びを一枚のシートで視覚化することで、生徒自身が何をどのように学んでいるかが分かり、その学びが自分の日常生活につながりのあるものであることを一目で実感できた。また、教師は指導内容と生徒の日常生活とのつながりを確かめながら授業を進められた。
- 「すてきな大人になろうシート」を活用し、単元の学習内容を基に「目指したい理想の自分」を考えさせたことで、生徒自ら日常生活や現場実習などにおける自分の課題とのつながりを考え、単元終了後に「目指したい理想の自分」になれるよう目標をもって授業に取り組み、実践することができた。
- 「すてきな大人になろうシート」を活用し、毎時間の「まとめ・振り返り」において、本時の学びを生かして生活の中で「実践したいこと」を考えさせ、それを実践するよう促し、単元の「まとめの過程」で振り返るようにした。こうすることで、単元での学びが、現在の現場実習、入社試験、将来の働く生活の中で生かせることを実感できた。

2 課題

- シートへの書き込みが多く、読みにくさを感じた生徒がいた。話し合い活動などで見返したときに、分かりやすいよう、実態に合わせてシートの枠や記入の仕方を工夫する必要がある。
- 「目指したい理想の自分」や「実践したいこと」のイメージをすることが難しく、具体的でなく抽象的な言葉で記入した生徒がいた。そのような場合には、これまでの経験を思い出させたり、学んだことを本人と確認したりしながら、具体的にイメージできるよう個別支援をしていきたい。

実践例

1 単元名 「表現力を高めよう」 (第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、表現力を高めるため、「感想と状況を区別して伝える」「断りの伝え方」「慣用句やたとえ言葉の使い方」「原因と結果を整理して話すこと」の四つを挙げる。授業では、生徒が現在及び卒業後の社会生活に関わる人と会話をする際によくある課題を、自分事として捉えながら課題を解決していく。また、単元全体で「すてきな大人になろうシート」を活用する。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	※個別目標を設定している。ここでは対象とする1名について記す。 ア 考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解することができる。 (知識及び技能) イ 相手に伝わるように、間の取り方などを工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) ウ 言葉には人間関係を構築するよさがあることを認識し、自分の思いや考え方を伝え合おうとしている。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	※個別に評価規準を設定している。ここでは対象とする1名について記す。 (1) 考えとそれを支える理由、原因と結果などは結び付いて成り立っていることを理解し、整理して話そうとしている。 (2) 相手に伝わるように、間の取り方や態度など、気を付けることを考えている。 (3) 職場体験などに向けて、自分の思いや考えをより伝え合うために実践したいことをまとめている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人や職場体験の先輩との会話の中で、困った場面やもっと上手に表現をしたいと思った場面を想起して、その原因や理由を考えさせることを通して、本単元の課題を見いだすことができる。 教科書に示されている各項目などを確認し、学習内容に見通しをもつ。 単元の学習後に、「目指したい理想の自分」を「すてきな大人になろうシート」に記入する。
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 二つの似ている会話や文章から、それらの意味する違いを考えることを通して、自分の考えと事実を区別して話したり書いたりすると分かりやすいことに気付く。 本時で学んだことを生かし、実践したいことを「すてきな大人になろうシート」に記入する。
追究する	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 慣用句や例えがどんなときに使われているかについて、調べることを通して、これらの言葉を使うと、分かりやすくなることを知る。 本時で学んだことを生かし、実践したいことを「すてきな大人になろうシート」に記入する。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験などに向けて、上手な断り方を考えることを通して、最後まで相手の顔を見て話したり、「～だから」と理由を添えて話したりすると分かりやすいことに気付き社会生活で生かしていけるようにする。 本時で学んだことを生かし、実践したいことを「すてきな大人になろうシート」に記入する。
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容がよく伝わる文とそうでない文の違いを見付けたり、よく伝わるための方法を考えたりすることを通して、原因と結果が結び付いていることやそれを整理して伝えると分かりやすくなることに気付く。 本時で学んだことを生かし、実践したいことを「すてきな大人になろうシート」に記入する。
まとめる	第6時	<ul style="list-style-type: none"> 「すてきな大人になろうシート」で、これまでの学びや実践したことを振り返り、写真やイラストなどを用いて、一枚の用紙にまとめ発表し合う。

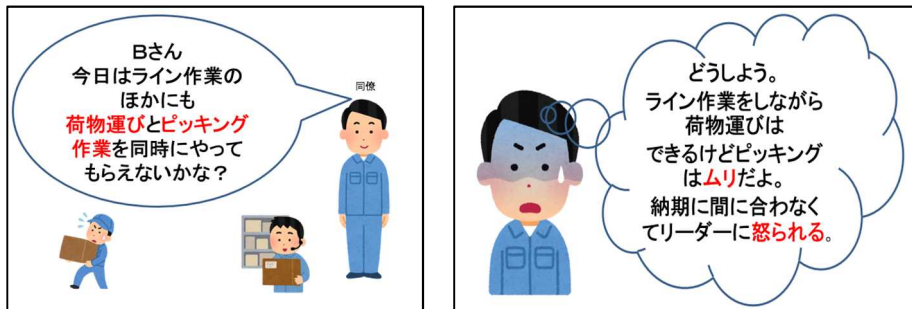
3 本時を含む本単元及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第4時に当たり、「上手な断り方」について追究していく。単元全体を通して、生徒が学んだことを現在及び将来の社会生活とのつながりで考え、生活の中で生かそうとすることができるよう、以下の二つの手立てを講じた。

手立て1 単元の課題や本時の「めあて」設定時の工夫

身近な人や現場実習先の先輩との会話の中で、困った場面やもっと上手に話をしたいと思った場面をスライド資料でテレビに映し出して想起させ自分事として捉える。

(例)現場実習中、仕事を依頼されて困った場面。



手立て2 「すてきな大人になろうシート」の活用(資料参照)

- ・「つかむ過程」では、単元「表現力を高めよう」の見通しをもち、学習内容を基に「目指したい理想の自分」をイメージし、記入させる。
- ・「追究する過程」では、毎時間、本時の学びを生かして現在及び将来の生活の中で「実践したいこと」を考え記入させる。また「つかむ過程」で考えた「目指したい理想の自分」を確認させ、変更・追加事項があれば記入させる。各時間に記入した「実践したいこと」を、日常生活の中で、実践していくよう促す。
- ・「まとめの過程」では、この単元での学びを生かして「実践していること」を振り返らせ、理想の自分の姿に近付けたことを確認できるようにする。

4 授業の実際

(1) つかむ過程 (第1時)

生徒が単元の課題を設定する際に、身近な人や現場実習先の先輩との会話の中で、困った場面やもっと上手に表現をしたいと思った場面をスライド資料を用いて自分事として捉えることができるよう、想起させた。単元を貫く課題である「もっと分かりやすい表現の仕方をするには、どうしたらいいだろうか」や、各時間で学んでいく内容を踏まえ、この単元終了後に「目指したい理想の自分」を記入させた。「すてきな大人になろうシート」に「目指したい自分」を記入することで、現在及び将来の理想の自分に近付けるように、授業に意欲的に取り組もうとする姿が見られた。

(2) 追究する過程 (第2時～第5時) ※本時は第4時

生徒が本時の「めあて」を設定する際、生徒の日常生活や現場実習で、よく見られる誘いに断れなくて困っている場面をスライド資料で示した(図1)。生徒は、「はっきりと断る」や「相談する」など断り方は、理解しているが、普段は断り切れず、ただ返事をしてしまったり、沈黙してしまったりした経験を友達に話していた。そのため、本当に相手を不快にさせない断り方が自分にできるのだろうかと不安そうな様子であった。そこで、生徒がみんなで考え、「めあて」を「断りを上手に言おう」と



図1 スライド資料をもとに課題を把握し「めあて」を考える



図2 「実践したいこと」を記入

設定した。生徒は上手な断り方を考えることを通して、相手の意図と自分の思いの両方を考え、自分が何をどうしたいか勇気を持ち、最後まで相手の顔を見て「〇〇だから」と理由を添えて話すということに気付くことができた。そして、そのことをまとめ、「目指したい理想の自分」の「追加・修正」欄に加えていた。また、ここでは、「相手の立場に立って考えて伝える」を「実践したいこと」として記入した(図2)。

(3) まとめる過程(第6時)

「大人になろうシート」で単元全体の学びや学んだことを生活の中で生かし実践したことを振り返り、まとめたものを発表した。

「目指したい理想の自分」に近付けたことが分かり、国語で学んだことは、自分たちの生活とつながっており、生かせるということを実感できるようになった。学校生活では学校見学会に訪れる中学生に授業の説明を「楽しいですよ。来てください」と言うだけではなく、根拠をもって説明したり、入社試験では問いに対して根拠をもって答えたりすることができたと発表する生徒がいた。既習事項を授業だけではなく日常生活や社会生活とのつながりの中で生かすことができた(図3)。



図3 完成した「素敵な大人になろうシート」

5 考察

手立て1で、単元の「つかむ過程」や各時間の「めあて」の設定時で、身近な人や現場実習先の先輩との会話の中で、困った場面やもっと上手に表現をしたいと思った場面など、スライド資料を用いて自分事として捉えることができるようにした。こうしたことで、生徒が共感しながら課題等を設定していた様子から、単元の課題や本時の「めあて」を自分の社会生活とのつながりで考えさせることに有効であった。

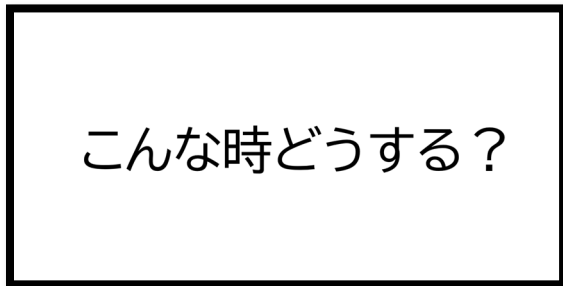
手立て2で、まず、「すてきな大人になろうシート」をA3用紙一枚のシートにしたことは、生徒が視覚的に学んだことを理解できた姿から、単元を貫く課題である「もっと分かりやすい表現をするにはどうしたらいいだろう」を、生徒自身が何をどのように学んでいっているかを理解することに有効であった。また、教師は、毎時間の授業が生徒の「目指したい理想の自分の姿」に向かっているか、「実践したい」ことが、日常や卒業後の社会生活に役立つことにつながっているのかを見取ることができた。

そして、「追究する時間」に教師がどのような場面で実践したいかなどを生徒と一緒に話し合う支援を行いながら、生徒に「実践したいこと」を具体的に記入させたことで、学んだことを現在及び将来の社会生活とのつながりで考える姿が見られるようになった。「まとめる時間」では、学校見学会に訪れる中学生に授業の説明を「楽しいですよ。来てください」と言うだけではなく、なぜ楽しいのか具体的に根拠をもって説明できたり、入社試験では問いに対して、問いの意図を考えて、問いの要旨を捉えて答えたりすることができたと発表する生徒の姿が見られた。国語で学んだことを様々な機会に生かすことに有効であったと感じた。

上記のことを通して、国語の学習において、学んだことを現在及び将来の社会生活のつながりで考え、社会生活で生かしていこうとする態度を養うことに有効であったと考える。また、「すてきな大人になろうシート」に自ら記入した「目指したい理想の自分」を確認し、「実践したい」ことを身近な場面や将来の就労場面において生かすことができたと考える。生徒からは、「目指したい理想の自分」を考えることを他の教科でもしてみたいという声が聞こえた。生徒が将来像を描きながら見通しをもって、授業に取り組むことができるこのシートは、他の教科・領域等でも活用できるシートではないかと考える。

6 資料

○本時の導入時に使用したスライド資料



1



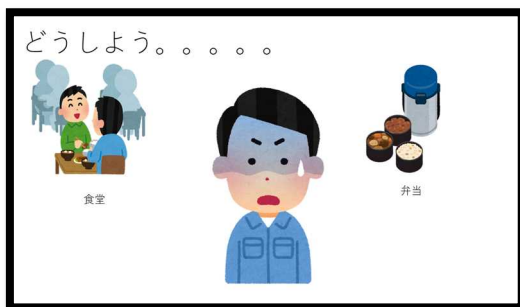
2



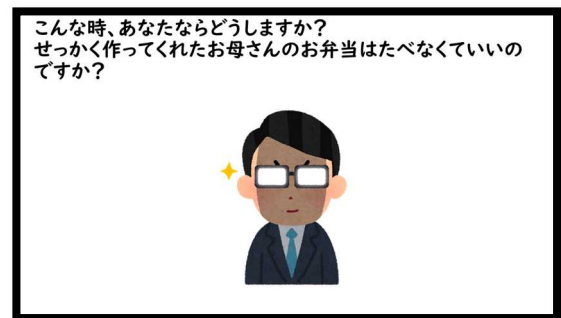
3



4



5



6

まとめ

単元の目標

めあて

分かったこと

実践したいこと

めあて

分かったこと

実践したいこと

目指したい理想の自分

めあて

分かったこと

実践したいこと

めあて

分かったこと

実践したいこと

追加・修正

友達の実践から

「単元名」すてきな大人になるシート

名前